

健康支援のための保健医療連携

亀田メディカルセンターのとりくみ

亀田 俊忠

亀田メディカルセンター



亀田メディカルセンター

亀田グループ

亀田関連企業

亀田産業株式会社
株式会社 KTS
株式会社 KMC
株式会社 亀田医療情報研究所
株式会社 アピウス
株式会社 国際疾病管理研究所

医療法人鉄蕉会関連グループ
亀田総合病院附属幕張クリニック
フランククリニック
森の里病院
亀田医療技術専門学校
亀田訪問看護センター

亀田メディカルセンター

亀田総合病院 925床
亀田クリニック 3,000 / 日
亀田リハビリ病院 56床

職員数2,300(医師360)

亀田総合病院健康保険組合
亀田総合病院グループ厚生年金基金

福祉事業

社会福祉法人太陽会
老人保健施設 たいよう
特別養護老人ホーム めぐみの里
身体障害者療護施設 しあわせの里
知的障害者授産施設 らんまん



Patient Rooms



Bedside IT Application



亀田メディカルセンターと継続医療

健康増進施設



亀田メディカルセンターと継続医療

健康増進



亀田メディカルセンターと継続医療

亀田ファミリークリニック館山



亀田メディカルセンターと継続医療

回復期リハビリテーション



亀田メディカルセンターと継続医療

回復期リハビリテーション



亀田メディカルセンターと継続医療

在宅医療・訪問看護



亀田メディカルセンターとマスタープラン

総合相談室



これからの健康サービス

健康サービスのあり方 ～ 健康サービスを実現するための仕組み

医療

保健

各種健康産業

介護

福祉

医療をコアにした
継続的・横断的な
個人健康サービスの
提供

健康サービス提供の仕組み

1. 提供体制

医療機関・各種施設との連携による
健康サービスの提供

⇒スポーツ、フィットネス、リラクゼーション、
ダイエット、各種専門医療

2. 財源

混合診療の推進

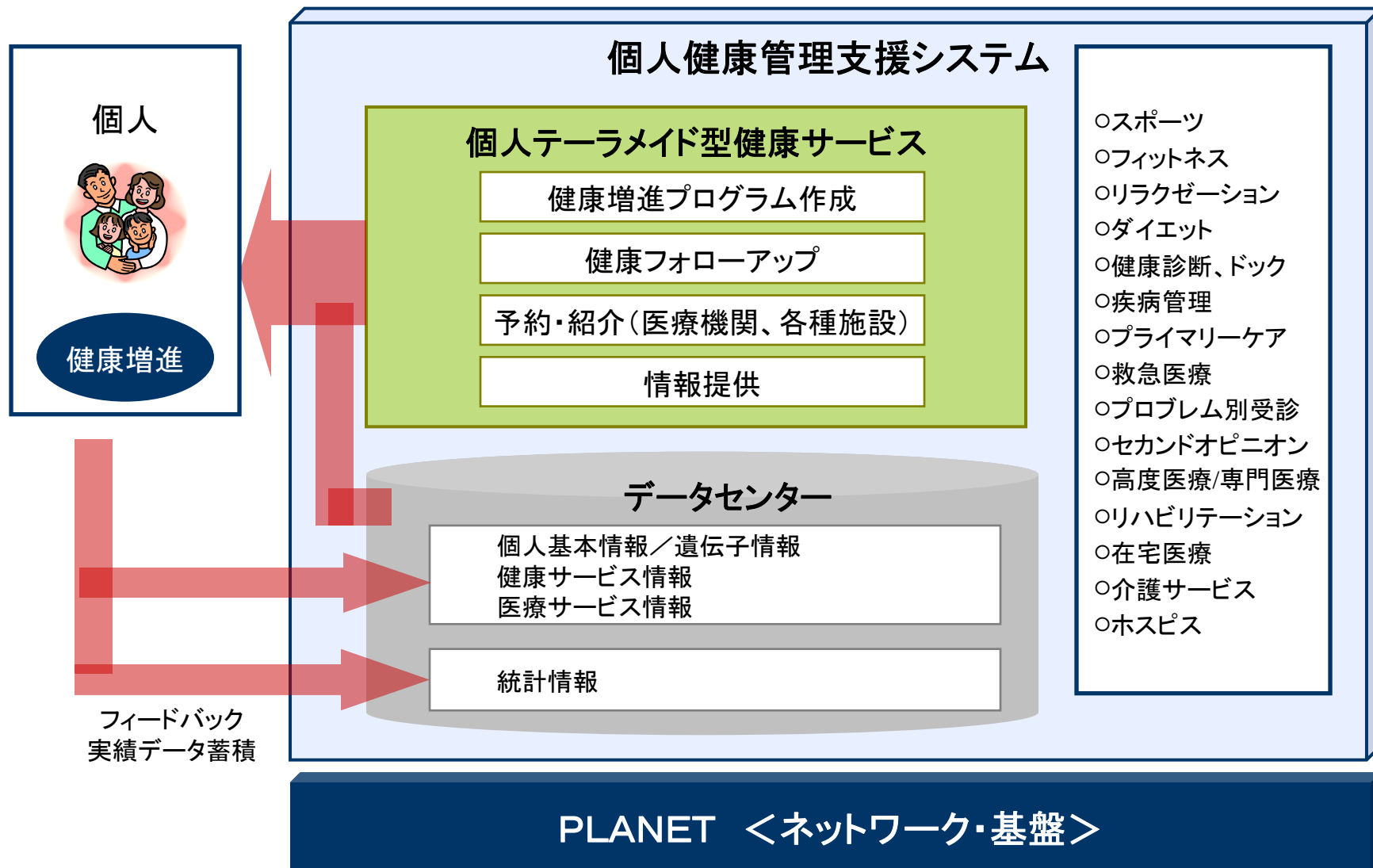
⇒「自己責任に基づく選択」と
「社会セーフティネット」との組み合わせ

3. 報酬体系

「出来高払」・「包括払」
「会員制（人頭制）」・「自由価格」
「公定価格」

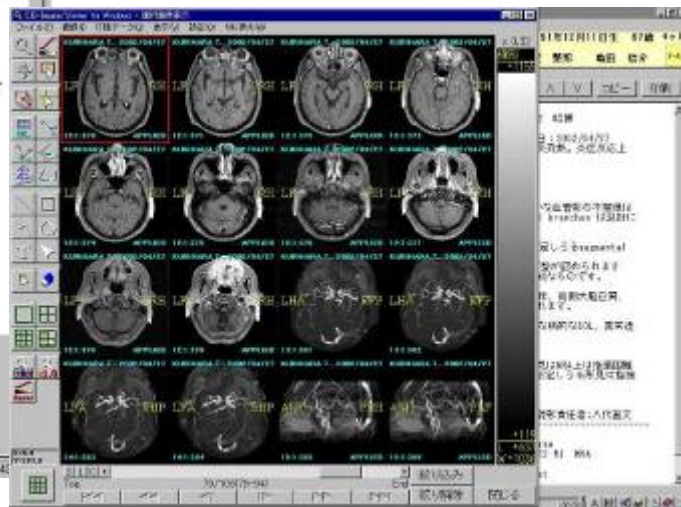
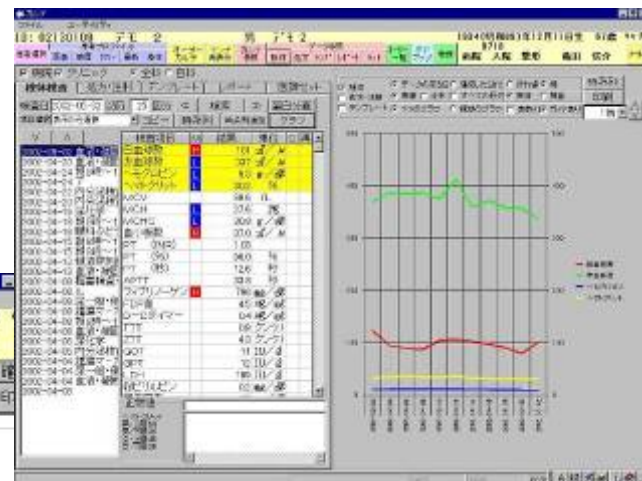
これからの健康サービス

健康サービスのあり方 ～ 個人健康管理支援システムとは



患者さま中心の医療とIT化

第1期: 電子カルテ導入



患者さま中心の医療とIT化

厚生労働省 地域診療情報連携推進のモデル事業

Patient Centered
Lifetime
Anywhere on the Planet
NETworking System

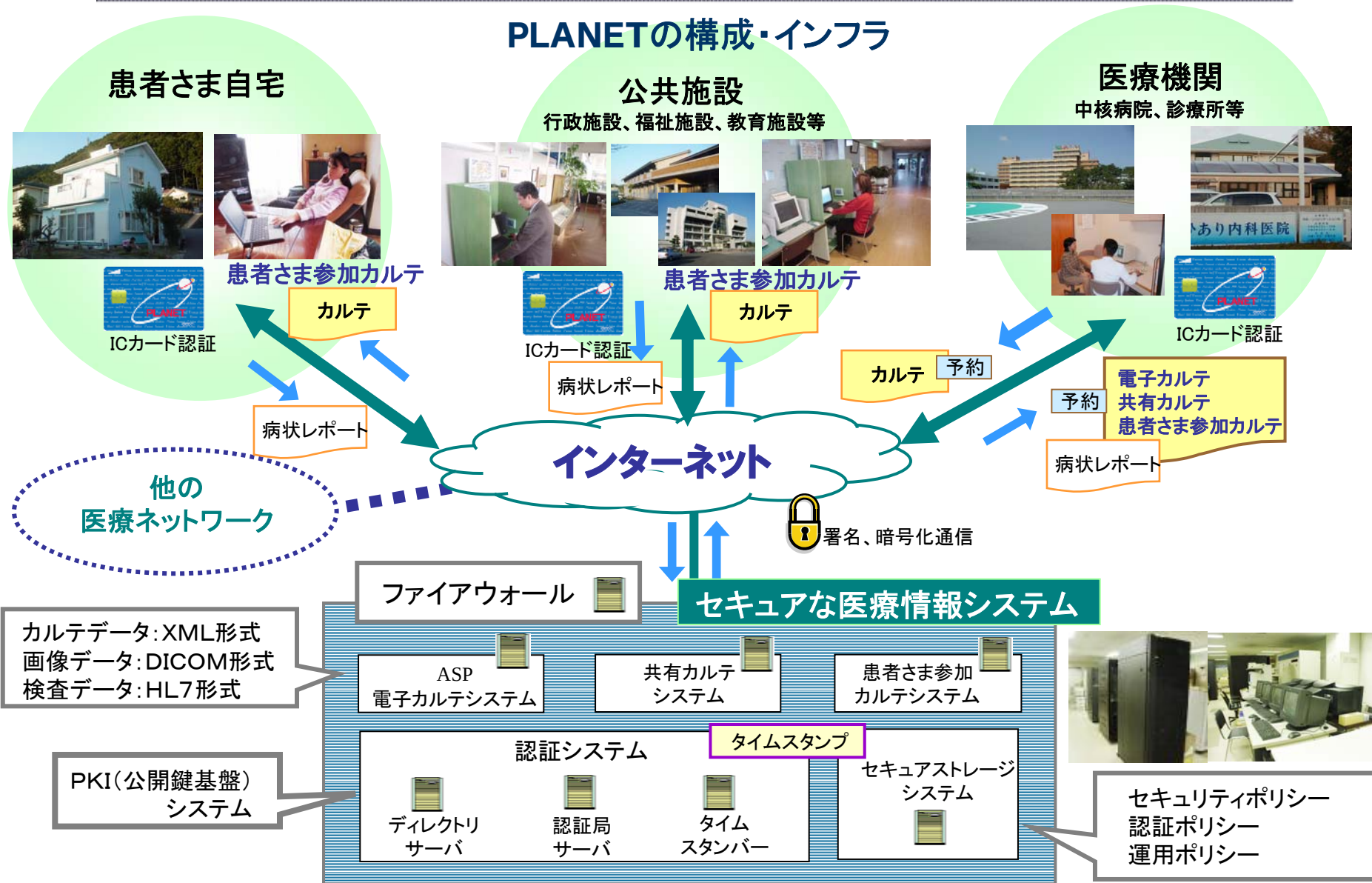
患者さま中心の医療情報を
生涯にわたり
地球上どこでも継続して
活用できるネットワークシステム

PLANET



患者さま中心の医療とIT化

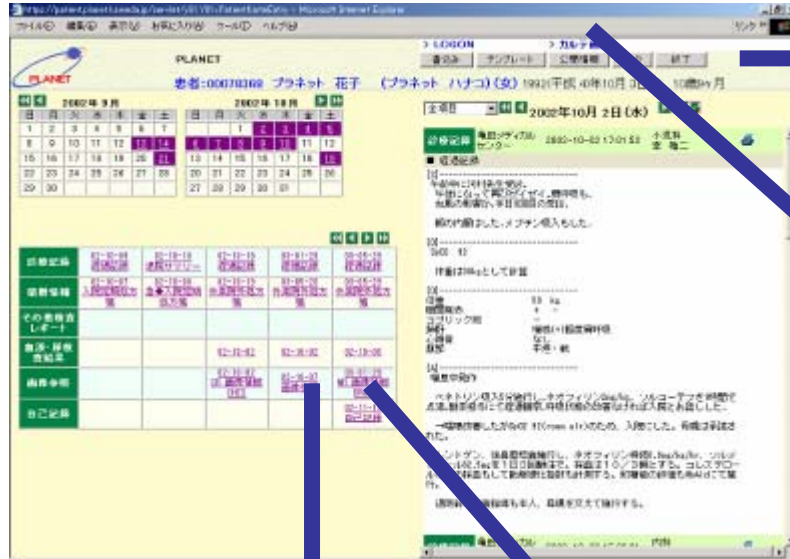
PLANETの構成・インフラ



患者さま中心の医療とIT化

患者さま参加カルテ イメージ

患者さまカルテ参照画面



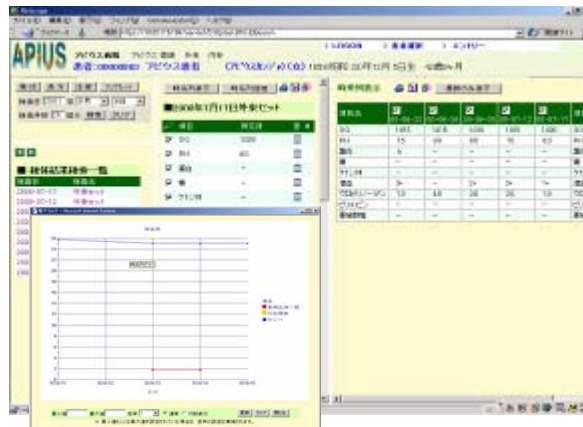
医療関係サイト



画像表示画面



検査結果表示



患者さま記入画面

The screenshot shows a patient registration screen. It features a form with various fields for patient information. The form has sections for '個人情報' (Personal Information), '医療情報' (Medical Information), and 'その他' (Other). The form includes fields for name, date of birth, gender, and medical history. There are also checkboxes for various medical conditions. The bottom of the form has a section for '医師の記入' (Physician's Entry).

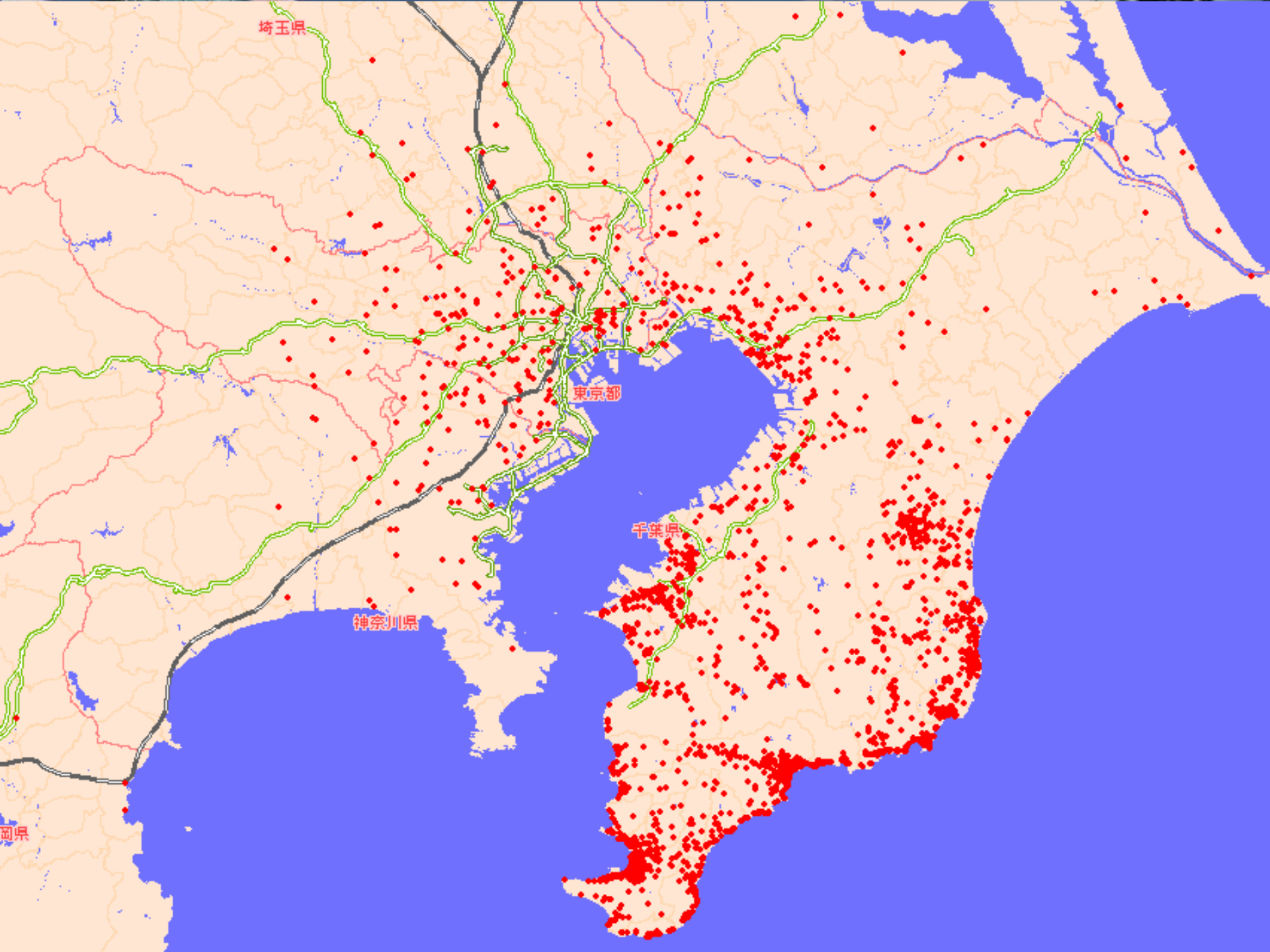
患者さま中心の医療とIT化

次世代移動体通信への応用

携帯電話のみでPLANETを利用できる

携帯電話上で診療情報の参照、健康情報の入力ができる





特定健診・特定保健指導事業の実施に向けて

ITを活用した メタボリックシンドローム対策包括支援プログラム

平成19年10月1日

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
理事長 亀田俊忠

特定健診・特定保健指導と医療機関

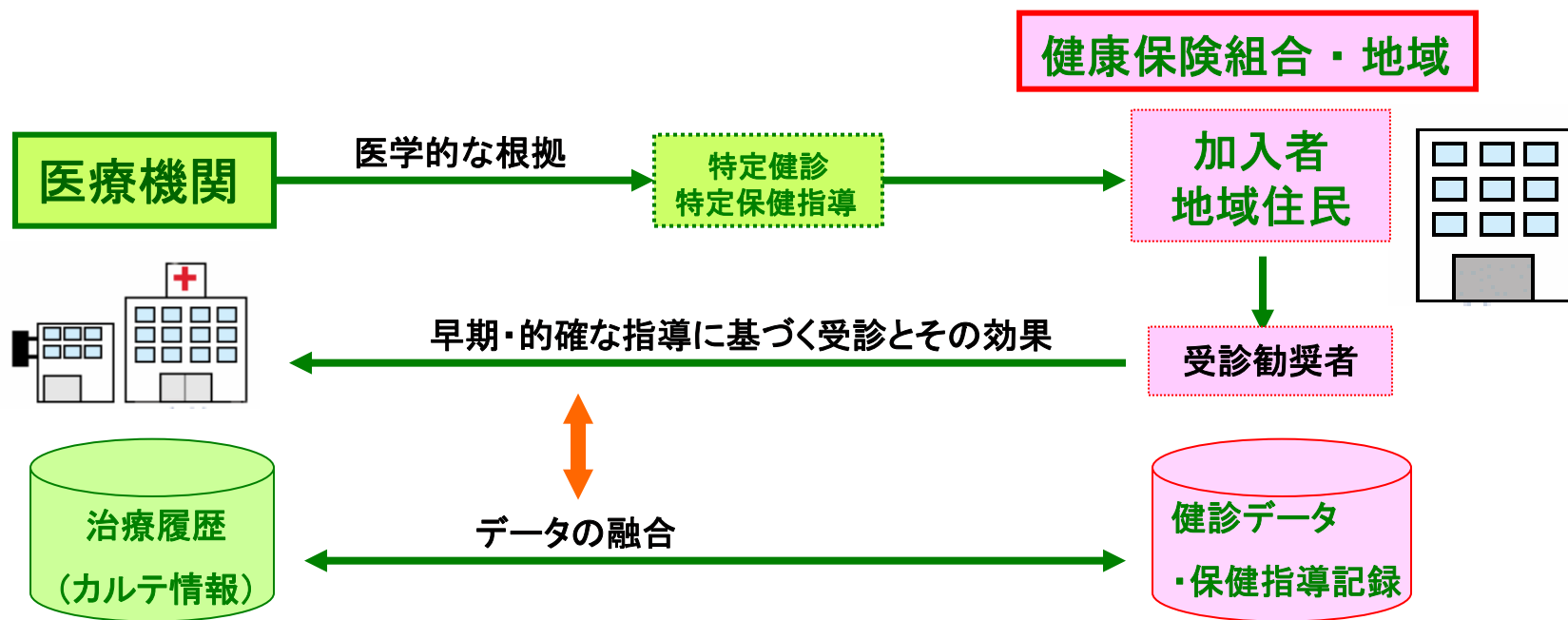
医療機関に求められる役割

◎地域（地方）において、医療機関がその医療資源を活用し、特定健診・特定保健指導の担い手の中心となること。



医療機関が参画することへの期待

- データの高度活用 : 健康関連データの融合による、生涯を通じた包括的な健康管理
- 実効性ある保健指導 : 医療機関と保険者（保健師等）との連携による受診勧奨者の受診促進
- 安全な保健指導 : 医療機関の参画による、医学的な根拠に基づいた保健指導等を実現



亀田総合病院が目指す包括支援プログラム

包括的支援プログラムの目指すところ

1. IT技術、保健指導（疾病管理）のノウハウ、コーチングなどの新行動科学アプローチを融合させた、効率的で確実に参加者の目標達成を支援する保健指導プログラムを実現する
2. 医学的な根拠やエビデンス（データ分析）に基づき、効果的な保健指導と必要に応じた早期治療による参加者の高いQOLを実施する
3. 電子カルテとPLANETをベースに総合的・継続的なデータの集積・融合によって、生涯健康管理を実現する

健康保険組合・地域

健保組合に求められる新たな業務対応

現状分析→今期計画

特定健診・特定保健指導

評価・報告

次期計画

総合的
網羅的
支援メニュー

亀田総合病院

連携・委託

国際疾病管理研究所
（保健指導）

亀田総合病院が目指す包括支援プログラム

1. WEB特定保健指導等支援システム「スマイルヘルス」による支援



健診データ等を取り込む

データー一括取り込み機能
健診データ等を一括取り込みし、階層化などの必要な処理を自動的に完了する

アクションプラン(行動計画)を立てる

アセスメント機能
対象者の現時点の健康状況や生活習慣、心理状態、行動変容ステージなどが一目で分かる



保健指導を実施する

コミュニケーション支援機能
(インストラクターと対象者がWeb上で会話)
・定型文の自動返信機能で効率化
・トレース機能で適宜にチェック・アクション

支援ポイント集計機能
個人ごとに指導ポイント(点数)を自動計算

健康手帳に記録する

健康手帳(Web版)
健診結果やアクションプラン、プランの実行状況などの健康情報を対象者が書き込み、インストラクターとやり取りする総合情報記録ツール

保健指導を評価する

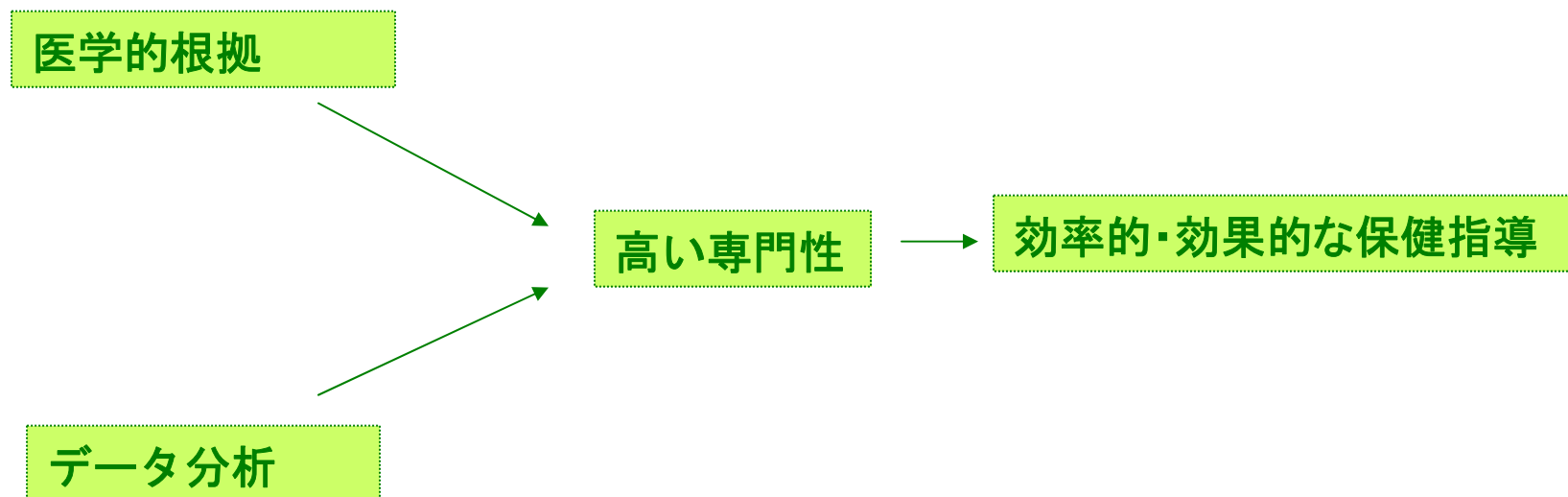
評価・管理機能
・対象者個々の健康状況や生活習慣、心理状態、行動変容ステージなど改善度が一目で分かる。
・保険者の計画達成状況や保健指導委託先の保健指導の効率や効果を分析できる。



亀田総合病院が目指す包括支援プログラム

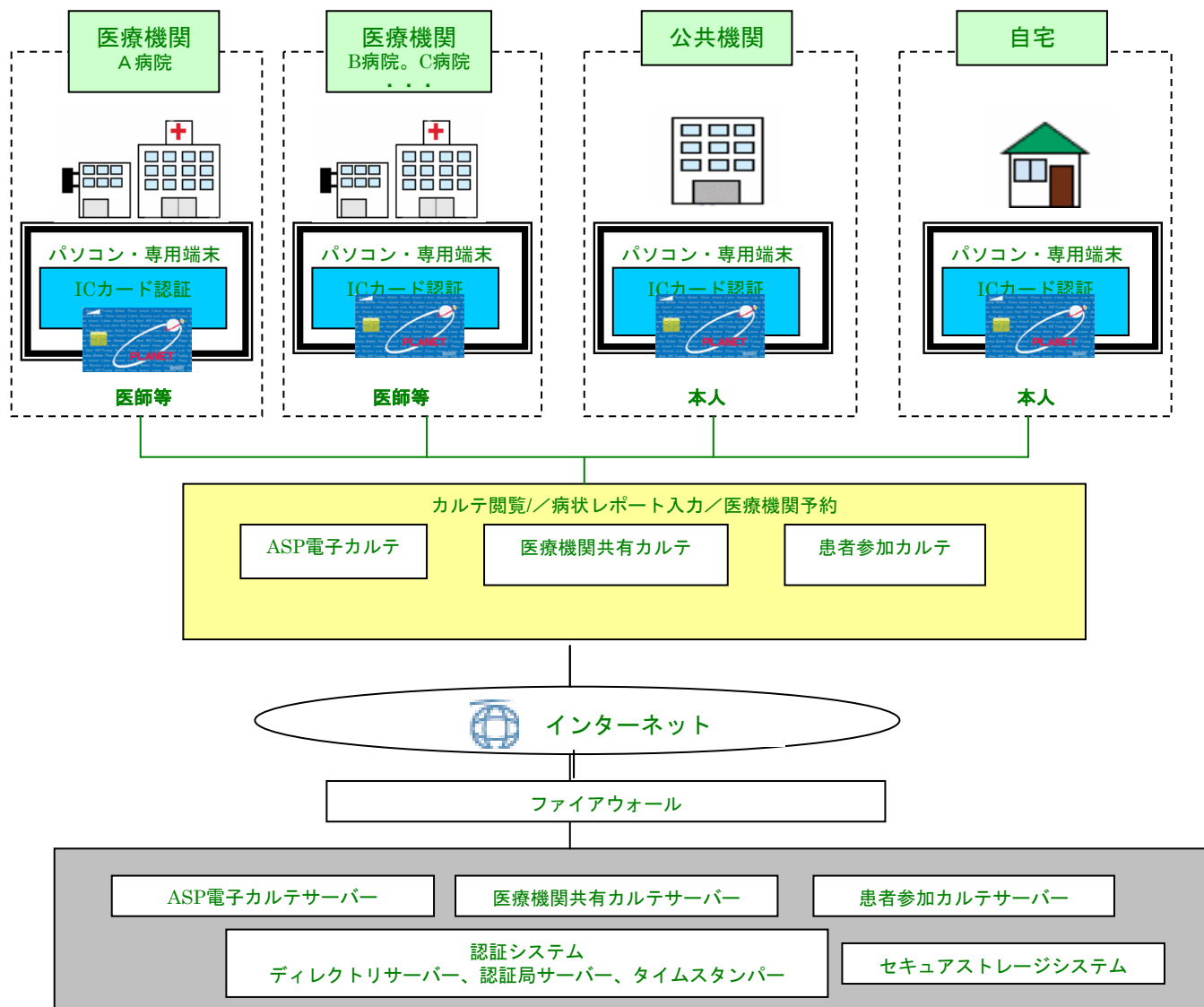
2. 医学的な根拠やエビデンス(データ分析)に基づく支援

疾病管理に関する医学的分析やレセプトとの突合分析などの実績を背景に、高い専門性に裏付けられた保健指導を実施、ムダを極力排することで、最小のコストで最大の成果（健診実施率、保健指導実施率、メタボリックシンドローム該当者・予備群減少率などの改善）を実現する。



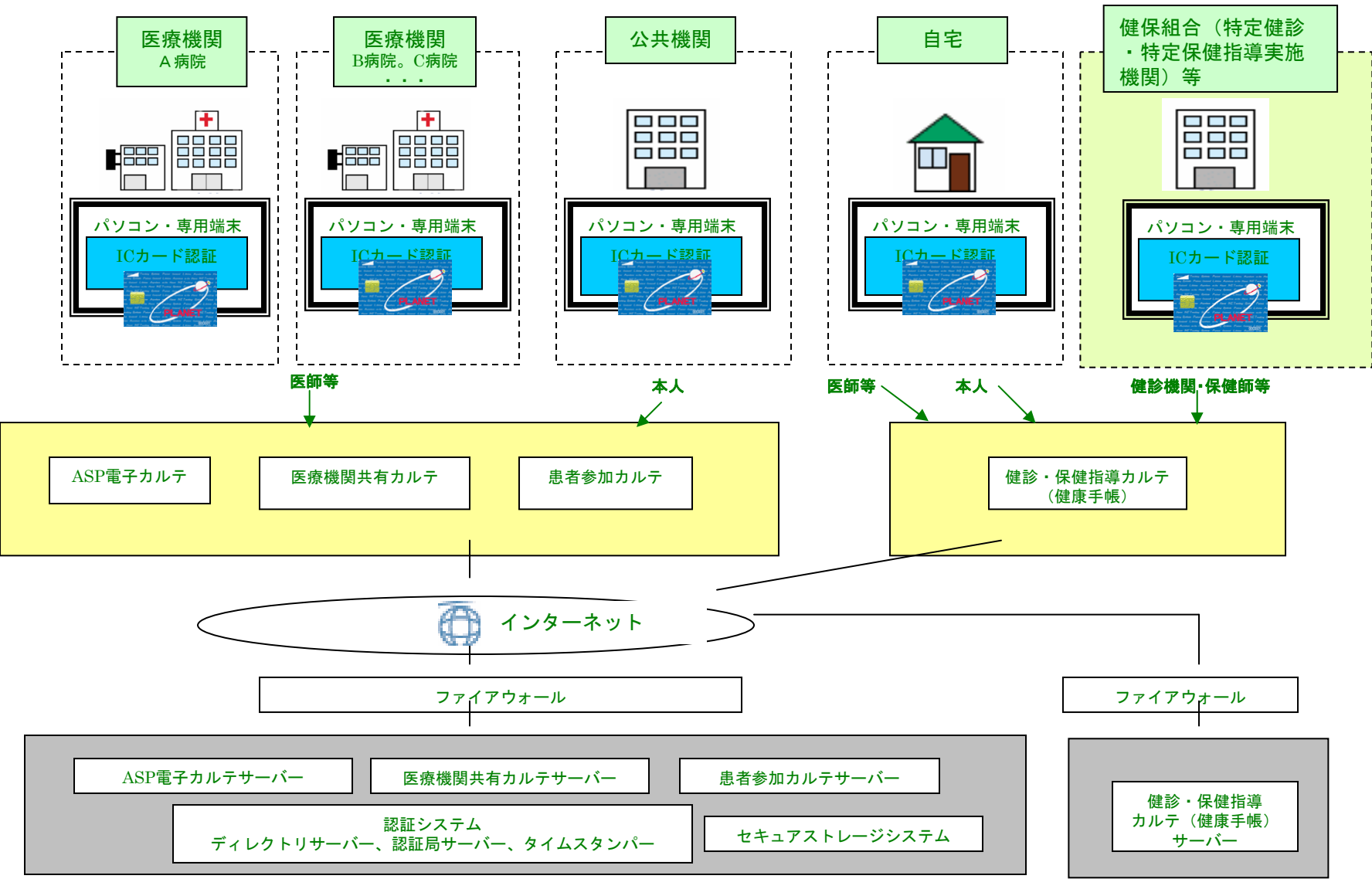
亀田総合病院が目指す包括支援プログラム

3. PLANETを利用した特定健診・保健指導システム概念図 その1



PLANETを利用した特定健診・保健指導システム概念図

3. PLANETを利用した特定健診・保健指導システム概念図 その2



亀田健保でのプレ事業への取り組み

1. プレ事業の狙い

亀田総合病院

ITを活用した「包括支援プログラム」(特定保健指導確定版準拠のプロトタイプ)を実際に適用して、平成20年度以降の特定健診・特定保健指導の受託に向けたプログラムの改善を図る。また、院内体制構築に際しての要件整理を行う。

亀田総合病院健康保険組合

特定健診・特定保健指導実施の基盤整備

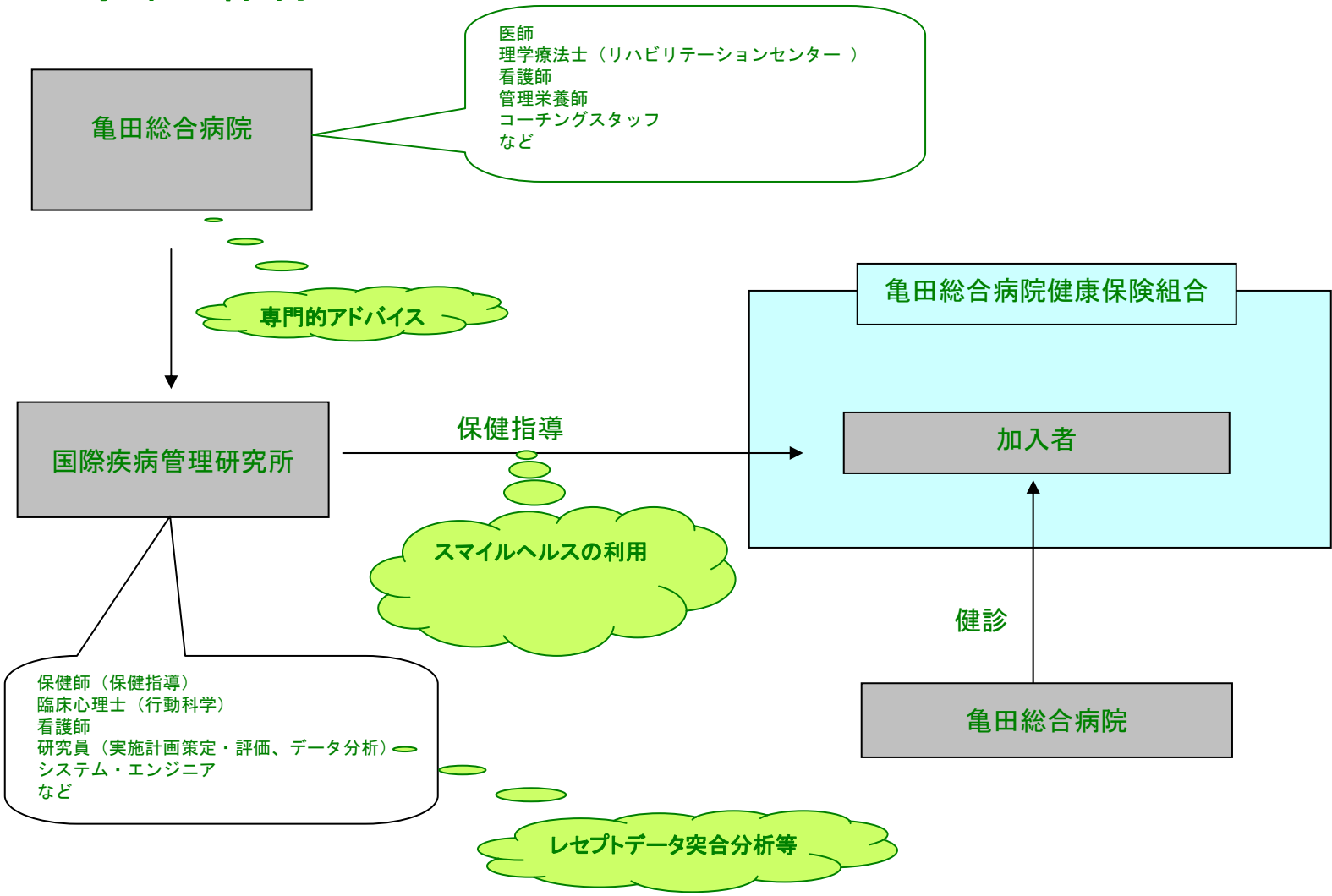
- ・現有データに基づく加入者の実態把握
- ・アウトカム等(介入プログラム)の実施状況把握と評価・検証および計画立案における数値根拠の取得
- ・H20年度特定健診・保健指導実施計画(モデル)の立案

特定健診・特定保健指導の実施計画策定の事前準備

- ・実行可能性の高い、根拠に基づく計画立案が可能になる
- ・新制度に対応した健保組合としての新たな業務と負荷について検証が可能となる

亀田健保でのプレ事業への取り組み

2. プレ事業の体制



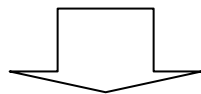
亀田健保でのプレ事業への取り組み

3. プレ事業の概要

介入の準備

準備期間：H19年4月～6月

- ・ 介入対象者の個人属性の的確な把握
- ・ 個人属性に最適な個人別行動計画（案）づくり→初回面談時に介入対象者に提示
- ・ 効率的な介入を可能とするグループ分け



介入の実施

介入期間（予定）：H19年7月～12月（6ヶ月間）

H19年7月 初回グループ面談←健診

H19年10月 中間グループ面談←健診

H19年12月～H20年1月 健診→結果評価・通知

- ・ 面談、Eメール、電話を基本とした効率的な介入
- ・ 医学的根拠に基づく自己啓発ツール
- ・ 「介入メニューカード」を用いた、わかりやすく、スムーズな保健指導
- ・ 「健康手帳」に、健診データや行動計画の実施状況などすべての情報を集約し、介入対象者と介入者間でやりとり（コミュニケーション）



H20年度特定健診・保健指導実施計画（モデル）の策定

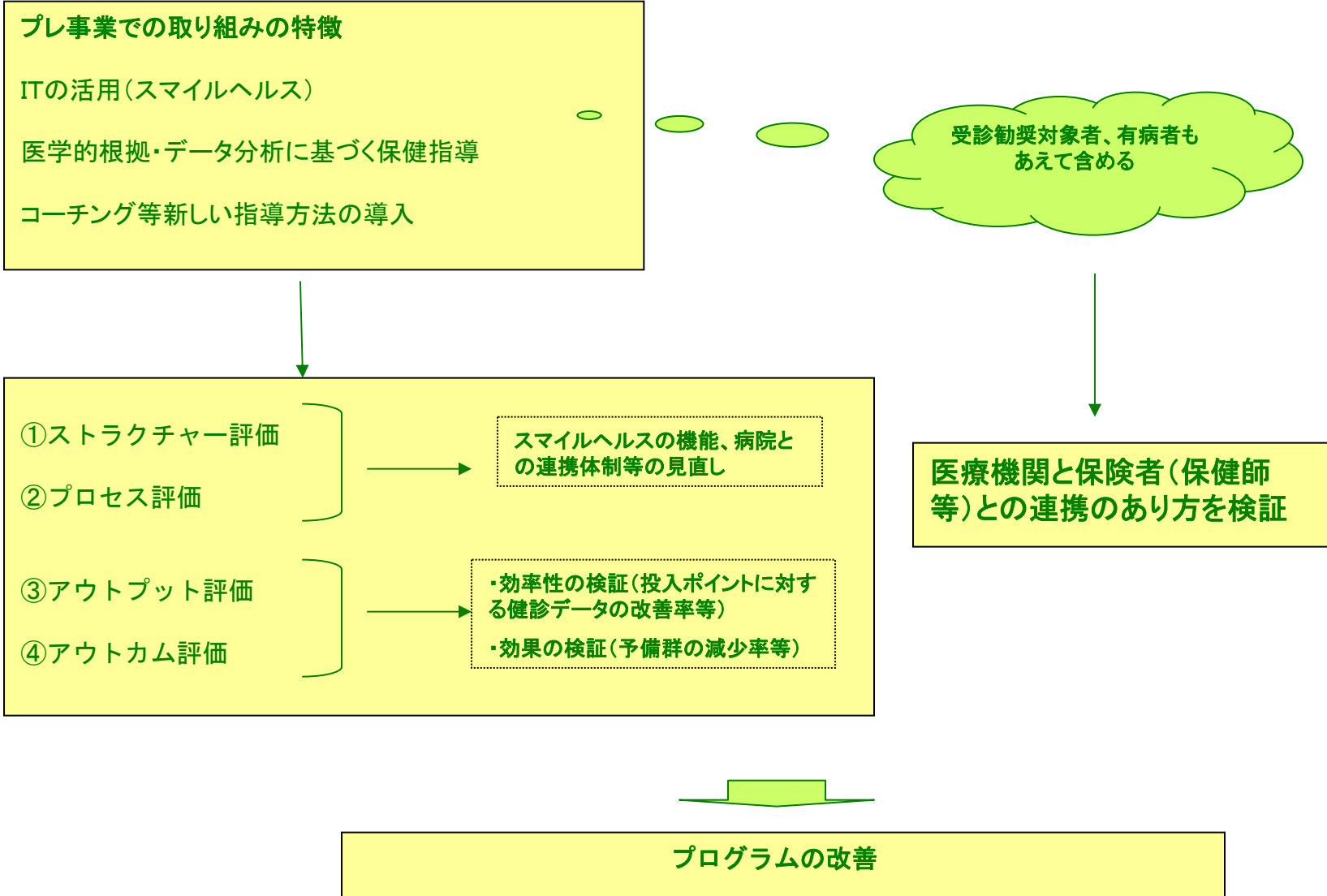
H20年1月～3月

- ・ 現有データに基づく被保険者・被扶養者の実態把握
- ・ アウトカム等（介入プログラム）の実施状況把握と評価・検証および計画立案における数値根拠の取得
- ・ H20年度特定健診・保健指導実施計画（モデル）の立案

- ・ 健診データの具体的検証
- ・ 保健指導対象者の属性把握（当面所有するデータによる）
- ・ 対象者の属性に応じたグループ分け
- ・ 個人別データ分析結果
- ・ 個人別結果評価（参加者分）
- ・ 個人別行動計画・実施状況のフィードバック項目の検討
- ・ 保健指導のスケジュールのモデルプラン

- ・ 達成目標の作成
- ・ 特定健診・保健指導対象者数の推計
- ・ 特定健診・保健指導の実施方法策定
- ・ 個人情報の保護の体制づくり
- ・ 計画の公表・周知方法の策定
- ・ 計画の評価手法の策定

プレ事業での取り組みの特徴と期待される効果





End

